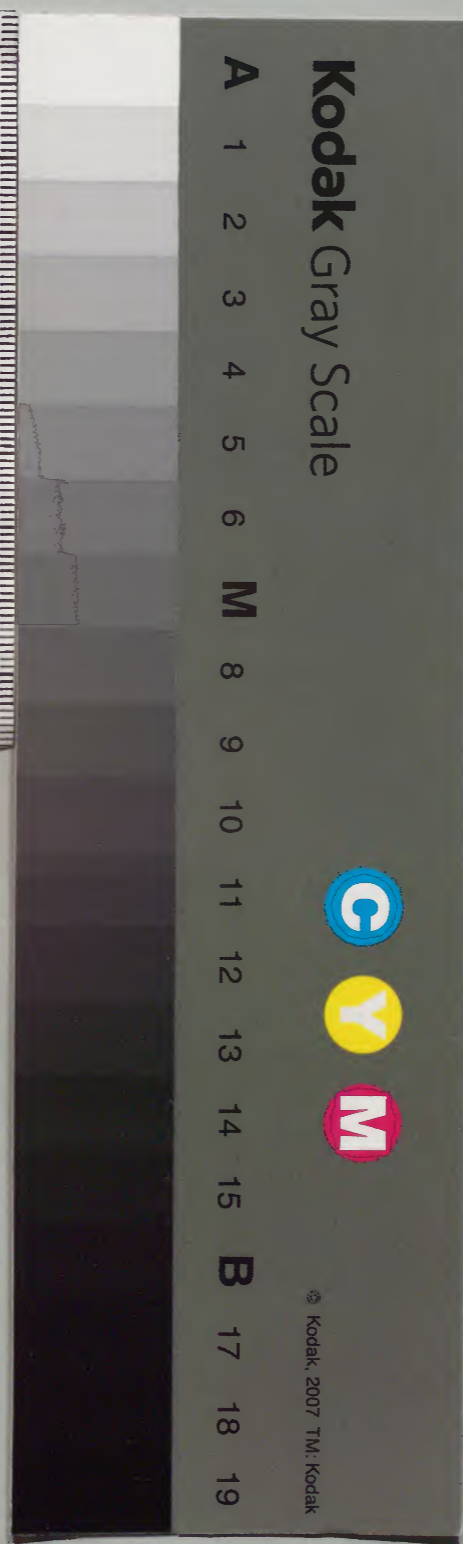


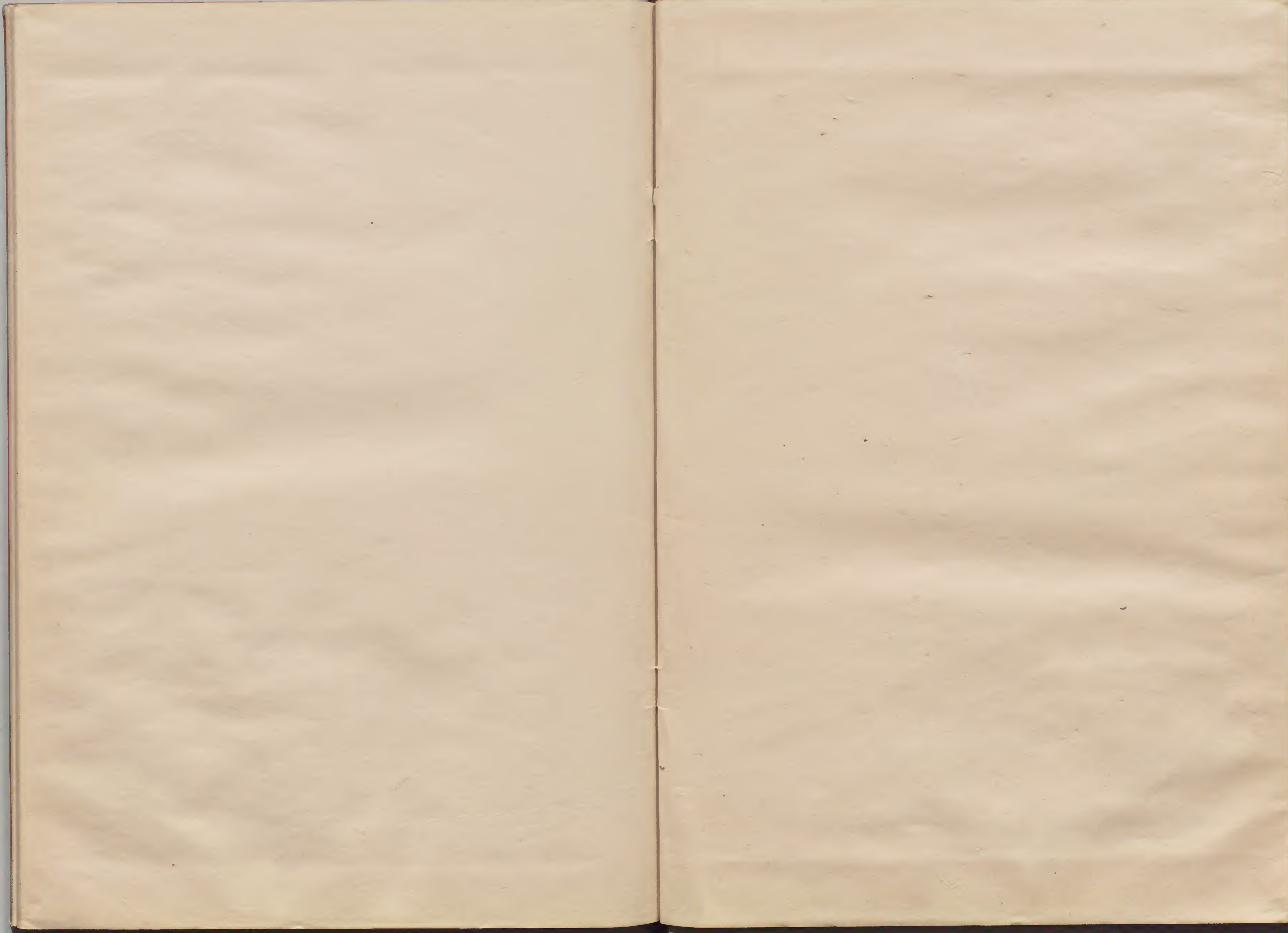
度山

和書門類			
二	一	二	二
一	一	六	四
二	二	六	七
册	架	函	號

內閣文庫			
九	二	二	和
九	一	七	書
函	一	二	
架	册	號	類

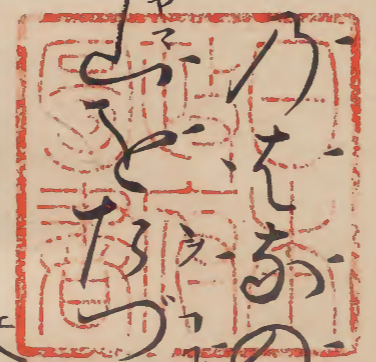
內閣文庫			
番號	和	24729	
冊數	212 112)		
函號	199	216	







當今タウギン



移シテ...

柳ヤナギ...

浅草文庫

らそも...  
さうりあ...  
たまひ...  
蒙カウム...

乃都は空も何なるよ  
 出づも嵐乃山梅子木の枝ハ  
 うれぞとて尋て今ぞ又ハ  
 野乃花ハ雲カとあがぬきふる  
 うのうへん乃あさくさとも  
 めよだよもたぐひあまぬある花  
 乃景色くればある花のききさ  
 裁

思ハさやあ〜んよ思て佐心  
 きづくよ花吹雪あがくすねそい  
 花もあ乃まほや嵐乃山はく  
 雲とよほほを楢あ 芳野乃  
 えまのねあまやちくく久し  
 雲乃いろ 思ハたけら山の  
 花とよほあ婦の者よそのあ

スミヤクシロの山乃根と名子ねへと  
まゝも都をばうれ花見の  
行幸あつぐしこがしこの花乃根  
花て此乃山よ植直まほの世まで  
の眺ともやそとても君乃めぐこ  
うま切きたたのりきえんを山はる  
中流代乃雲の影ら切とあらもたふありや

九重乃根切内布よかお花車ぶら  
えも西よめぐれ目の影や雲の何し  
やま戸経瀬よ落るまゆとちれかと  
るれ花の色盛次しきき  
かか石思ぎわお是ある老人  
とみま花よむらむ湯作乃き  
見たりたしといふある人

三  
山乃花守にて依又  
瓦山の千本の桜は皆神木にて山  
神よ花よ向ひ借作り依  
あー山乃千本の桜を神木と  
する謂はくよ 一実御不審に理り  
あに花より一燈の千本の桜をうつ  
し花れしとゆゑよ人よりしな

わじら籠守勝神の神ともよ  
此花よ影向あるを 一実わり  
もいふとようきなる山死わす  
花の名所といはれそりじめおき  
きれぎ 一とよき一とよ神も  
あれぬよ花の奇ぬともあ  
らんとの御めぐも 一実たのもやみ

きよあひま治まるみり野乃神  
も護らば木のづらゑ入るあ  
ありとも花のもちじれも  
あつてこもをそとて去の神我  
う音たやら山人よふせ  
終ひろ切同 鐘乃岩室乃松凡  
く實相の花はりりひく  
お 實相の花はりりひく

花の都たて今花の山はく夏  
箕川の水清く玉乃月もと  
ふせよ又雪のふらりぬるや流も  
大堰のち水はもつ  
花をもちらひよ  
みちてく庭前の木をさるも神  
ゆきて吹入らば雲乃雲も晴ぬ

べし 千本乃山 裾長閑きあ  
の山内 咲花を 枝いささ 花目も  
脱くれぬを じよのまを ませ  
終へべし 時日も みのりの 山極立  
くは 雲より ちのりて 夕陽 残る西  
山や みあま のかすよ けさよ せり  
梨二 芳野乃 ちりも

の花乃 種うゑて 嵐山 ありたる  
種あろ びづめ だきこり 種  
づめ だき 花  
しう まい だき ちり 花  
は くの びくこ ちか ちや 松の色 花  
根 ぐら 家よ ち 小倉山 もみ  
た ち びく ち 磯の 里下 大堰 川の



岩根よはうれ龜山もみしたるが  
萬代とてやせく神ありび  
早振 神樂の鼓もまたみて  
神樂の秘曲も度重りて感應  
胸よめいさるるよりか不思議や南の  
のより吹くる内なる異音薫りて

瑞雲たふびき金色のきらりかやま  
もこれなる王權現の表現も  
光利物のいさぐさ 我本覺の  
都をて分岐同語の塵よまじり  
胎胎两部の一足といはれ  
の危生の苦患をたをけしらて又虚  
危よ浄平とありてハ 念苦海の

煩惱をさしび 青蓮の青蓮  
のまふさるまよ 光明を放つて 四去を  
てし 龍生を守れ ちうひをあり  
こもま かつて 般若王 権現 同躰 異名  
り海をみせて 木のくろし 山よ  
よらのぼり花よ たり くれ 梅子 ちん  
つて くらふぐ 家も 金の 峯の ちんり

も 輝く 千本の 桜 くの のらふく  
あふく くらふく くらふく

